



忖度する

連休が終わって悲しいというのが一般の反応だが、諸君は体育大会の準備が早速始まる訳で、そんな後ろ向きなことを言っている暇はない。もちろん、勉強の方もしっかりしてもらわねばならない。つまり、すっかり忙しくなるわけだ。そんな諸君の状況を、担任団も「忖度」しないわけではないのだが……というのが、「忖度」という語の元々の使われ方である。それが、(あの事件の報道で使われているように)最近では使われ方が変わってきているという。引用してみよう(朝日新聞4月30日)。ちなみに、担任団の「忖度」は元来の意味であって、引用の中に登場する最近の意味ではありませんから要注意(笑)。

*

言葉の専門家から、「忖度」の使われ方はどう見えるのでしょうか。小学館で「日本語大辞典」などを担当し、辞書作りひとすじ38年目の神永暁(さとる)さん(61)に聞きました。

◇

忖度の文字は、中国最古の詩集「詩経」に見えます。日本の文献では、平安時代、菅原道真の「菅家後集」に出てきます。その後の用例はごく少なく、明治になって増えますが、「推量する」以上の意味合いはありませんでした。全13巻に及ぶ日本最大の辞典、日本語大辞典でも、【忖度】は「他人の心中やその考えなどを推しはかること」と解説するだけです。

それが近年、推量したうで「何か配慮して行動する」という意味が加わってきました。「政権の意向をメディアが忖度する」といっ

た使われ方にはマイナスイメージも伴っていて、少し残念な気がしています。

この用法なら「斟酌(しんしゃく)」の方がふさわしいはず。この言葉には、まさに「ほどよくとりはからう」「気をつかう」という意味があるからです。

ただ興味深いことに、斟酌もさかのぼると推量の意味しかなく、後から配慮の意味が加わってきた言葉なのです。忖度は、意味もその経緯も「斟酌化」しているとみることができます。

斟酌ではなく忖度が使われるようになった理由は、正直、よく分かりません。「そんなく」という響きが重々しく、格式ある場にふさわしいと感じられるからでしょうか。

難しい言葉が本来とは違う意味で使われるという例なら、「忸怩(じくじ)」があります。「恥じ入る」ではなく、「残念だ」というニュアンスでよく聞かれるようになりました。

忖度でおもしろいのは、森友問題で注目されると、瞬く間に国会の外でも使われるようになったということです。みなさんの気持ちや経験にぴったり合ったということなのでしょう。朝日新聞デジタルのアンケートでも、「知らなかった」という声が多く、推量し配慮する意味での「忖度」ならさまざまな組織で見聞きするという意見が目立ちました。

千年単位で伝わる漢語由来の意味が変わり、一気に広まる。そういう場面に立ち会っているのかもしれない。感動すら覚えます。これから出る辞書は、その変化を考慮した解説にせざるを得ないでしょう。